

# 小栗上野介と江幡祐蔵

## — 万延元年遣米使節 —

嘉永六年（一八五三）、ペリー提督は、四隻の「黒船」を率いて浦賀に来航し、江戸幕府に開国を求め、アメリカ合衆国大統領の国書をもたらししました。翌年には、幕府が合衆国政府と締結した『日米和親条約』によって、下田と箱館が開港し、幕府の鎖国体制が終焉しました。以後、激動を幕末を迎えることとなります。

ペリー来航からさかのぼること二十一年前、江幡祐蔵は、下吉影の地に造り酒屋を営み、俳人でもあった江幡昭眉の二子として生まれました。幼い頃から、郡方手代として紅葉組にいた大内與一郎の門人として学び、十七才の時には笠間藩士富田忠蔵の婿養子となりましたが、二十二歳の頃に離縁してしまいます。その後、祐蔵は、江戸に上り、二五〇〇石の旗



江幡祐蔵の記念写真

本である小栗上野介忠順に仕えるようになります。安政五年（一八五八）、日米間の通商条約である『日米修好通商条約』の調印がなされました。この条約には、アメリカ側に領事裁判権を認め、日本に関税自主権がありませんでした。

二年後の万延元年（一八六〇）、日米修好通商条約の批准書を交換するために、正使新見正興、副使村垣範正を代表とする「万延元年遣米使節」がボートン号でアメリカ合衆国に派遣されました。その際、江幡祐蔵の主であった小栗忠順も監察で参加し、祐蔵も小栗の従者の一人として同行することが許されました。

使節団一行は、品川沖でポーハタン号に乗船、横浜を出航後、ホノルルに寄港し、サンフランシスコに到着、太平洋を横断しました。その後、パナマを経由して、目的地であるワシントンに到着、二月九日（以下新暦）に乗船して五月十五日に到着する九七日間の船旅でした。

五月十七日、ブキャナン大統領に謁見して批准書を手渡し、五月二十二日、批准書は交換され、当初の任務を果たしました。一行は、ワシントン滞在中の二十五日間にスミソニアン博物館、国会議事堂などを訪れています。六月五日、再び大統領に謁見、その後、国務長官より小栗ら使節三人には金メダル、随員には銀メダル、江幡祐蔵ら従者には銅メダルが贈られました。

祐蔵に送られた銅メダルの表には、ブキャナン大統領の横顔と「JAMES BUCHANAN, PRESIDENT OF THE UNITED STATES」、裏面には、「IN COMMEMORATION OF THE FIRST EMBASSY FROM JAPAN TO THE UNITED STATES 1860.」（日本からアメリカ合衆国への最初の使節団の記念として）と浮き彫りされています。ワシントンで大役を果たした一行は、ボルチモア、フィラデルフィアの東海岸の都市を訪問し、六月十六日にはニューヨークに到着しました。ブロードウェイのパレードでは五〇万人が集まり、空前の大歓迎を受け、六月二十九日にナイアガラ号で帰国の途についています。



銅メダル（表）

ニューヨーク滞在中、祐蔵は、ブロードウェイにあるc・d・フレドリクスの写真館で記念撮影をしています。撮影された写真はダゲレオタイプ（銀版写真）で、腰に刀を二本差し、椅子に座った祐蔵が映し出されています。

祐蔵を乗せたナイアガラ号は、北大西洋を横断して、八月二十七日には喜望峰を回ってインド洋に入り、十一月九日に品川沖に帰着しています。世界一周も果たした二七五日間の使節でした。

その後の江幡祐蔵は、数奇な運命をたどります。帰国後、主の小栗は、勘定奉行、軍艦奉行などの幕府の要職を歴任し、さらに、横須賀製鉄所の建設を進言しています。

時は流れ、慶応三年（一八六七）、十五代將軍徳川慶喜は、大政奉還を行いました。翌年には鳥羽・伏見の戦いが勃発、戊辰戦争が始まります。慶喜の江戸帰還後、江戸城で開かれた評定において、小栗は主戦論を唱えますが、慶喜は、恭順謹慎する意志を固め、小栗



銅メダル（裏）

#### ※①批准書

条約に対する国家の確認・同意を示す文書。

#### ※②スミソニアン博物館

米国のスミソニアン協会が運営する博物館・美術館・動物園などの総称。

#### ※③鳥羽・伏見の戦い

1868年1月27日（慶応4年1月3日）に起こった旧幕府軍および会津・桑名藩兵と、薩長軍との内戦。

#### ※④恭順謹慎

命令につつしんで従う態度をとること。

#### ※⑤罷免

職務をやめさせること。

#### ※⑥斬首

首をきること。首をきる刑。

は罷免されてしまいました。その後、小栗は一家とともに、所領があった権田村（群馬県高崎市）の東善寺に移り住みます。その際、祐蔵も同行します。

慶応四年（一八六八）五月二十七日、小栗は、官軍の原保太郎らに率いられた高崎藩などの藩兵により東善寺に、いるところを捕縛され、取り調べもなく、烏川の水沼河原にて斬首されてしまいました。祐蔵もほかの家臣とともに運命を共にしてしまいます。享年三十六。

江幡祐蔵の遺品である記念写真と銅メダルは、子孫の方から借り受け、小川資料館にて展示しています。

## 小美玉市サッカーフェスティバル（一般の部） 参加チーム募集！

市内在住・在勤の高校生、社会人が対象です。みんなでサッカーしましょう！！

【日 時】★1日目 11月6日（日）（小雨決行） ★2日目 11月13日（日）（小雨決行）

★11月20日（日）予備日

【会 場】ふれあい運動広場、玉里運動公園

【参加費】1チーム 2,000円

【応募締め切り】10月16日（日）まで ※募集枠がいっぱいになり次第、応募を締め切らせていただきます

【問い合わせ先・申し込み先】小美玉市サッカー協会第一種書記 山井 ☎：090-5206-6437

